

## 本時で目指す交流

～聞く楽しさ、話す楽しさ、わかる楽しさが生まれる交流～

問題文と図を行き来しながら伝える姿

本時では、問題文の数字をそのまま形式的に使ってしまう子と、問題文の意味を考えて問題文にはない数字「1」を見出す子とでズレが生じる。「まほさんはどこにいるのか？」と課題を焦点化させることで、全体交流を通してそのズレを修正していくと考えられる。

単元を通して図に表す良さに浸ってきた。図と問題文とを照らし合わせながら「まほさんがどこにいるのか」を伝え合う姿を期待する。

言葉をつないで伝え合う姿

しっかりと見て話を聞くことを基本としてきた。これまでの取り組みから、自然と友達の発言に対してつなぎ言葉を使って続ける姿が見られるようになってきた。

本時でも問題文を図で表したときに、どうして「  
」ではなくて、「  
」になるのかを「だってね」や「だから」、「でもね」などの言葉を使って考えを伝えあう姿を期待する。

## 本時の主張 ～授業改善のポイント～

確かな学びをサポートするための具体物の活用と

細切れに設定した自力解決と交流

本単元は問題文だけで問題を解くのは大変難しい。そこで単元を通して、問題文をブロックで表現する活動に必ず浸らせることで図やブロックで解くことを習慣化させたい。また、必要に応じて実際に子どもたちを並ばせることで問題場面を具体的に把握させたい。これらの算数的活動を通して、問題をイメージ化（図式化）することの良さについて感じてもらいたいと考える。

また、話し合いで“わかる”“わかった”を実感するためには、全体で交流したことを、再度、個に返す必要があると考える。さらに、授業の中で子どもたちが考えなければならない課題は変化していく。そこで、子ども達に新たな疑問や解決策が見いだされた場面では、細切れに自力解決の時間を設定したい。

学校帰りに先生も

全体交流では、“学校帰りに友達と話をするように話してみよう”と伝えてきた。話したがりの子が多いので、どうしても自分の意見や考えを言うことが中心となり、話がうまく繋がらない場面が多く見られる。そこで、教師が子ども達の交流と一緒に入り込んでつなぎ役をしていくことで、課題を解決する方向へと導いていきたいと考える。

## 単元の目標

順序数や求大、求小の場面で、ブロックを操作したり、図に表したりして場面を捉えようとしている。

(関心・意欲・態度)

順序数や求大、求小の場面で、ブロックや図などを用いて考えている。(数学的な考え方)

順序数や求大、求小の場面を式に表すことができる。(技能)

順序数や求大、求小の場面で加法や減法が用いられる場合を理解している。

(知識・理解)

## 単元構成 (5時間扱い)

1	<p>さんはまえから5ばんめにあります。さんのうしろには3人います。ぜんぶでなん人もいるでしょうか。</p> <p>どんなしきになるのかな? → どうしたらわかりやすい?</p> <p>ずをかくとわかりやすい</p>
2	<p>9人ならんでいます。さんはまえから4ばんめです。さんのうしろになん人もいるでしょうか。</p> <p>どんなしきになるのかな? → どうしたらわかりやすい?</p> <p>ずをかくとわかりやすい</p>
3 (本時)	<p>バスでいこどもがならんでいます。まほさんのまえに4人、まほさんのうしろに3人います。ぜんぶでなんにならんでいますか。</p> <p>7人? 8人? どちらかな? → まほさんはどこ?</p> <p>かくれた一人(さん)がいた。</p>
4	<p>さんはどんぐりを6こひろいました。いもうとはさんより4こおおくひろったそうです。いもうとはなんこひろったでしょうか。</p> <p>どうしたらわかりやすい? → どんなずになるのかな?</p> <p>2れつのずになるんだね</p>
5	<p>さんはまめを7こたべました。いもうとはさんより2こすくなかったそうです。いもうとはなんこたべたでしょうか。</p> <p>どうしたらわかりやすい? → どんなずになるのかな?</p> <p>ずをかくとわかりやすい</p>

板書計画（本時 5 / 5）

【本時の目標】 問題文を図に表す活動を通して、問題に出てこない数量『1』に気づくことができる。（数学的な考え方）

もんだい

バスでいにこどもがならんでいます。  
まほさんのまえには4人、うしろには3人ならんでいます。  
ぜんぶでなんにんならんでいますか。

2. 課題提示 1

答えは『7だ!』『8だ!』。式は『4+3だ!』など解決の見通しをてからもってから、『どちらなのかな?たしかめてみよう』とみんなで課題を共有する。『こたえ7』『こたえ8』のみを板書して自力解決に入る。

3. 自力解決 1

たしかめるために式のみではなく図やブロックで解く。

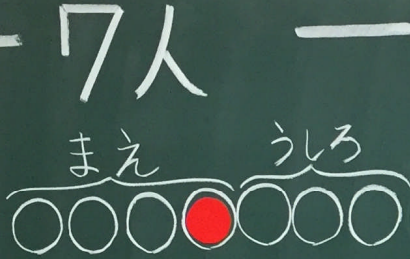
9. 評価問題

バスでいにこどもがならんでいます。さんのまえには2人、うしろには4人ならんでいます。  
ぜんぶでなんにんならんでいますか。

1. 問題提示

『ぜんぶで』のこたえをヒントにたし算だと考える子どもと1時間目の学習からたし算ではないのかと見通しをもつ。(テレビで提示)

こたえ



ず

4+3

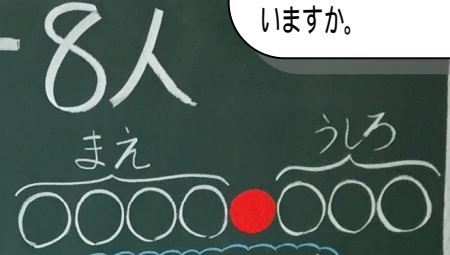
しき

どっち?

まほさんはどこ

かくれた1人がいた

こたえ



ず

4+4    4+3+1  
5+3    4+1+3

しき

4+1+3

4. 全体交流 1

『7人?』『8人?』どちらなんだろう?を確かめるために各自ノートに図を書いた状態での全体交流。『4+3』の子の考えの子と『4+1+3』の考えの子が交流することで、新たに『まほさんはどこ?』という疑問(課題)が生まれる。

5. 課題提示 2

自力解決 2

全体交流1で生まれた『まほさんはどこ?』の疑問がクラスで膨らんだところで、自力解決に入る。自力解決の中心は『まほさんのいる場所』を考えること。まほさんの場所をノートに記入。

8. 本時の課題に対するまとめ

今日の問題には、問題には書かれていない『1』が隠れていることをみんなで確認する。また、問題から形式的に式化するのではなく、図で考える事で場面を正しくとらえるためには図で考える事が有用であることも確認する。

6. 全体交流 2

自力解決 3

『まほさんはどこだ?』を中心に話し合う事でまほさんが前の4人にも3人にも入っていないことに気づく。みんなで8人だと気づいた所で各自で図を式化する。

7. 全体交流 3

『今日のお話にぴったりのお話はどれかな?』と発問することで、『+1』が書かれている式が本時の式にあうことを全員で確認する。